

# 大麦の越冬後幼穂長からの出穂予測

## 1 技術内容

### 1) 大麦出穂予測式の使い方

農業試験場のホームページにある「大麦出穂予測システム」

(URL:<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kikaku/oomugi.html>) を開きます。

下図の画面が開くので、黄色のセルの幼穂長と測定日を入力することで、出穂期と赤かび病の防除時期が出力されます。



#### 大麦出穂期予測システムver.1

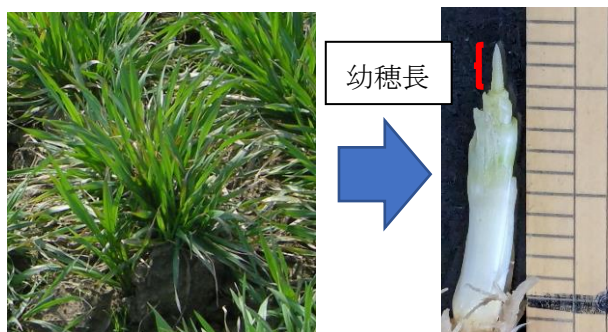
2024.02.19更新

- ・福井県内の大麦出穂期を予測するシステムです。
- ・下記①幼穂長(mm)、②測定日を入力すると、③出穂期、④⑤赤かび病の防除時期が出力されます。
- ・Excel2016以前のソフトでは使用できません。

入力値	①幼穂長	<input type="text" value="15"/>	mm	(入力範囲: 1~100mm)
	②測定日	<input type="text" value="3/12"/>		(入力範囲: 2/20~3/20)
出力値	③出穂日	<input type="text" value="4/7"/>		
	④防除時期1	<input type="text" value="4/12"/>		
	⑤防除時期2	<input type="text" value="4/22"/>		

※調査日以降の平年の平均気温を積算することで出穂期を予測しています。  
あくまでも予測ですので、防除など実際に作業する場合は生育状況等確認の上行ってください。

### 2) 幼穂長の測り方



- ・雪解け(2月下旬頃)を確認したら、主茎(一番太い茎)を根本からとり、カッターなどで幼穂長を測定します。

#### 【技術の効果およびコスト】

大麦の出穂日を正確に予測することで、赤かび病の防除計画が立てやすく、防除効果も向上することから、大麦の品質向上につながります。

(農試 次世代技術研究部 スマート農業研究G)